

# 地域プロジェクト成果報告書

## (函館市中学校数学教育研究会と交流するプロジェクト)

### ①背景・目的・概要

#### 背景

次期学習指導要領では、「生徒が主体的に目的意識を持って学習するために教師が日々の授業改善に努める」ことが強く求められている。このことは教員を目指す大学生にとっても大きな課題といえる。この課題に対し、函館市内の中学校数学教員が毎年実践している「授業研究」に学生が深く関わることは有意義なことである。

#### 目的

函館市内の中学校数学科教員の多くが所属する函館市中学校数学教育研究会（以後、中数研と略す）が行なっている授業研究活動の柱である研究授業づくりの授業構想・プレ授業づくり・指導案検討・研究授業参観・事後検討会に参加し、学んだことを模擬授業として体現することに務め、地域の中学校数学教員と連携をする中で、本プロジェクトの学生の数学教員としての資質の向上を図ることを目的とした。

#### 概要

前期は、前半は研究授業づくりに関与するための準備として、附属函館中学校と函館市立巴中学校において計5日間の授業観察を行ない、観察した授業をマッピングして分析し、「本時案」を再構築した。また、中数研という組織についての中数研幹事長による講義を受講した。後半では、3つに分かれているブロックから1つのブロックを選択し、研究授業に向けての検討会に参加した。後期は、前半は前期に引き続き各ブロックにおける研究授業に向けての検討会や、大学で実施したプレプレ授業に参加し、後半はこれらの活動から学んだことや教育実習の成果を踏まえ、大学で模擬授業を作り、現職教員に公表することで1年間の成果として発表した。

### ②年間スケジュール

(前期)

- 5月31日 【中数研総会】
- 5月～6月 【授業観察準備・授業観察】
  - ・附属函館中学校での授業観察（4回）
  - ・函館市立巴中学校での授業観察（1回）
  - ・附属函館小学校での授業観察（1回）
- 7月～ 【研究授業へ向けた取り組み】
  - ・各ブロックでの検討会参加
  - ・大学でのプレプレ授業の実施（1回）
- 7月26日 【中数研幹事長による講演】
- 8月16日 【中数研夏期研修会】

(後期)

- 10月～ 【研究授業へ向けた取り組み】
  - ・各ブロックでの検討会参加
  - ・大学でのプレプレ授業の実施（2回）



- 10月～12月 【研究授業】  
 ・Aブロック 10月5日
- 10月～ 【模擬授業づくり】
- 11月22日 【模擬授業発表 1回目】
- 1月11日 【中数研冬季研修会】
- 2月21日 【模擬授業発表 2回目】

### ③プロセスと成果

研究授業での授業を見る力を身につけるため、附属中学校や函館市内の中学校で授業観察を行なった。その際、「発問」・「生徒の活動」・「板書」の3つの観点に即して授業観察を行ないその取りまとめを行なうことで、3つの観点の相互関係に着目でき、授業を体系的に捉えることができた。また、中学校の授業観察に関連し、附属小学校での授業観察も行ない、小中間での授業の違いなどにも目を向けることができた。

そして、研究授業に向けた各ブロックでの検討会や大学でのプレプレ授業に参加し、授業をつくる手法を学んだ。大学でのプレプレ授業は、各ブロックの先生方に来ていただき、授業の生徒役は本プロジェクトのメンバーを含む大学生で行なわれ、なるべく中学生としての反応で授業が進むように意識をした。プレプレ授業後には、よりよい授業となるように各学生やブロックの先生方による検討会を実施した。研究授業当日は研究授業を観察し、事後検討会にも参加した。研究授業の参観は、実施中学校の諸事情などから、1回だけの実施となった。

最後にプロジェクトの成果として、中数研での活動で学んだことを活かし、2回大学で模擬授業を発表した。1回目は中学校第3学年の「三平方の定理」、2回目は中学校第3学年の「相似」の単元の範囲から1時間分の授業を行なった。1回目の発表では、中数研の活動への参加で関わった現職の先生方にお越しいただき、講評をいただいた。また、生徒の性格や学力を設定した「生徒役」を授業に取り入れ、より実際の中学校の授業の雰囲気近づけるような授業づくりを行なうことができた。模擬授業を作成する際には、4年生と先生から講評を受け、練り直しを何度も行ない、生徒が主体的・意欲的に活動できるような授業づくりができるように取り組んだ。

### ④総括と反省・今後の課題

#### 総括・反省

中数研での研究授業づくりでは、授業づくりに対しての教師の考え方や姿勢、1つの目標に到達するための生徒に対するよりよい教師による働きかけや手立て、教材へのアプローチの仕方などを現職の先生方から学ぶことができた。また、研究授業後の検討会や研修会に参加し「数学的活動に意欲的に取り組み、数学のよさを実感する学習を目指して」という研究主題に近づくための議論から、授業中に生徒が主体的に取り組めるような主体的な働きかけなどを考えることができた。



そして、このような学んだことを体現できるように、活動の成果としての模擬授業を作成し発表した。中数研での活動で関わった現職の先生の方々や上級生から作成した授業の講評を受け、それをフィードバックすることで、1年間の学びを整理し、プロジェクトの終了とした。

反省としては、中数研の研究授業に向けての各ブロックで取り扱う単元についての教材研究が不十分であったこと、上記のような活動を通して学んだことを模擬授業で生かし切ることができなかったこと、模擬授業づくりを計画的に行なうことができず、2回目の発表を当初予定されていた1月24日に実施できなかったことなどが挙げられる。

## 今後の課題

今後のプロジェクトのメンバー個人の課題としては、中数研の研究授業に向けての活動に参加して学んだことを今後の授業づくりに活かすこと、各学年の単元や内容に関する教材研究を継続的に実施していくことである。次年度以降の模擬授業づくりのための課題としては、現職の先生方の授業を参考にして計画的に行なうために、模擬授業づくりの前に目的や主題を設ける機会をつくれば、成果の発表として質が向上するのではないだろうか。また、現職の先生方や上級生を交えた各単元に対する学習会や検討会を実施することが挙げられる。

## ⑤地域からの評価

模擬授業の発表に来ていただいた現職の先生方からの講評として、「授業者が生徒の声を拾っていて良かった。」、「授業者の教具が良かった。」、「中学3年生の生徒にしては、演じた生徒役は元気すぎるので、もう少し生徒役を静かに設定した方がよい。」、「公開授業のような場をやりきることが大事。」などが挙げられた。

## ⑥メンバー一覧

担当教員 池田正

6308 加藤凌

6310 中居太郎

6313 小笠原太郎

6318 新谷匡史

6326 新保まりの

6347 岩崎洋渡



最後に、本プロジェクトの活動に対し快く協力していただいた、函館市中学校数学教育研究会の先生の皆様にご心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

また、模擬授業を作成する際、講評していただいた4年生をはじめ、模擬授業で生徒役を引き受けてくれた大学生の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。